

NEWSWAVE

発行

株式会社 常陽経営コンサルタンツ

新しい時代を切り拓く実践経営情報紙

食費、娯楽・レジャー費を削りたい 大きな費目から大胆に手を付ける

6月勤労統計調査で賞与を含む給与総額の目減りが20年ぶりのワースト記録だった。こうなると生活は収入・支出のバランスに一層シビアになる節約しか手立てはないだろう。

自己防衛一節約術は費目の徹底的な見直しから始まる。日経生活モニター調査(回答2181人)はa「節約できそうな費目」とb「できれば節約したい費目」を選んでもらった。最大の目標となったのが食費。aを上げたのは44%、bでも35%。今の生活水準を点検し「エンゲル係数を下げろぞ!」という覚悟が見える。

次は娯楽・レジャーでa、bとも20~25%。以下に電気・ガス、衣料・美容、通信、交際、交通(自動車含む)、保険が並ぶ。これの項目での特徴はaよりもb「できれば節約したい」の願

望が上回っている点だ。膨張した生活レベルをスリム化するのがいかに難しいかがわかる。

専門家のアドバイスは(1)自動車、保険、通信といった大きな費目から大胆に見直す(2)食費、電気、ガス、水道は、特に食費で外食を避けることと食材購入がポイント。値引き品や底値買いは当たり前。電気・ガスもムダが多いので、風呂は二度沸かしを避ける(3)家計簿などで予算を組み月次で支出(ムダやかけ過ぎ費目)をチェックする。

教育費は親子の悩みだが、将来像を語り合い家族の絆を確かめる絶好の機会としたい。節約一我慢も家族の協力なくしては始まらないものである。

2008 事務年度の輸入事後調査結果 申告漏れ額約 1984 億円は過去最高

財務省がこのほど発表した関税・消費税の申告内容の輸入事後調査結果によると、2008 事務年度(2008 年7月~2009 年6月)において全国の税関は6,080 名の輸入者に対して事後調査を行なった結果、申告漏れがあった輸入者は全体の68.9%とほぼ7割にあたる4,188 名となり、過去最高だった。事後調査は、輸入貨物に係る関税・消費税が適正に納税申告されていたかどうかに関する税務調査。

また、申告漏れに係る課税価格は、前年度比22.7%増の約1,984 億円となり、これに対する関税・消費税の追徴税額は同15.4%増の約130 億円で、ともに過去最高額だった。追徴税額の内訳は、関税が同15.6%減の約21 億円、消費税が同24.2%増の約109 億円。ちなみに、これまでの最

高額は、申告漏れに係る課税価格が約1,617 億円、追徴税額が約112 億円で、ともに2007 事務年度のものだった。

納税額の不足が多かった品目は、「電気機器」が約23 億円、「機械類」が約13 億円、「鉱石」が約9 億円、「鉱物性燃料」が約9 億円、「有機化学品」約7 億円。これら5 品目で、納付不足税額の総額の50.6%を占める。

主な申告漏れの内容は、①インボイスに記載された決済金額以外の貨物代金の申告漏れ、②海外生産のために輸入者が輸出者に無償で提供した原材料費用などの申告漏れ、③輸入港までの運賃などの申告漏れだった。